

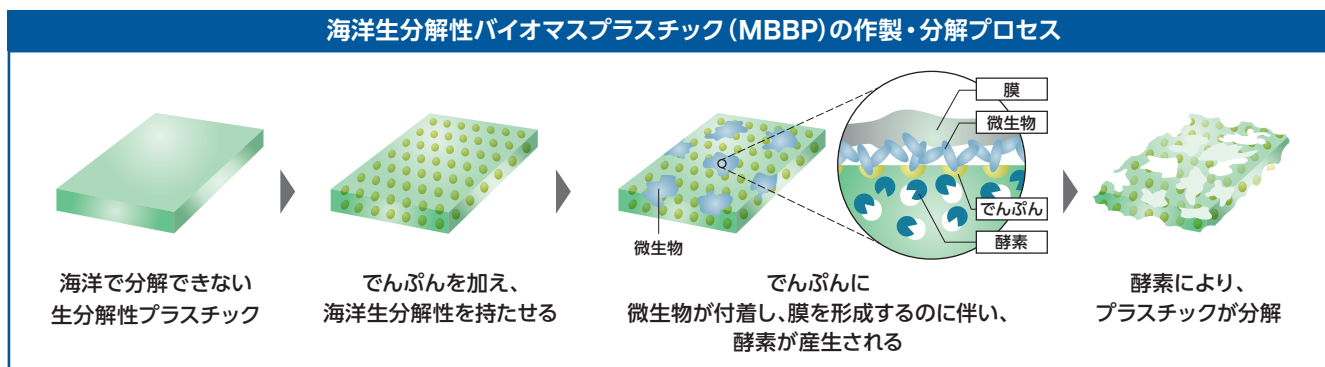
2020年12月1日

積水化成品工業株式会社(本社：大阪市北区西天満2-4-4 社長：柏原正人)は、2020年11月に設立された、海洋生分解性バイオマスプラスチックの開発・普及にむけた枠組みに参画し、さまざまな企業・組織と共にモノづくりを進めることで、環境に貢献する新たな価値創造を目指します。

海洋生分解性バイオマスプラスチック開発のプラットフォームに参画

大阪大学大学院工学研究科の宇山浩教授と徐于認助教らが、海洋生分解性バイオマスプラスチック(MBBP: Marine-Biodegradable Biomass Plastics)の開発・普及に向けた産学官連携の「MBBP開発プラットフォーム」を設立しました。このプラットフォームには、民間企業、公的研究機関、大学・公的研究機関などが参画し、海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、2025年までに製品の開発から実用化・社会普及までを目指します。

2020年3月、大阪大学は、でんぷんという身近な素材から、優れた海洋生分解性を示す複合シートの開発に成功しており、熱可塑性プラスチックに海洋生分解機能を搭載する材料設計指針を打ち出し、プラスチック製品の要求性能を満たすブレンド・複合化技術を開発しています。



当プラットフォームでは、この技術を基に、用途に応じた最適なMBBPの材料設計から量産、並びにMBBPの製品開発にまで取り組みます。

この取り組みの中で、積水化成品は実用化に向けた開発に参画することで、この技術と発泡技術を融合し、新規環境貢献製品の創出に取り組んでいきます。



積水化成品グループは、環境と共生するモノづくりを原点とし、「環境リーディングカンパニー」を目指し、従来から注力している3R活動(Reduce、Reuse、Recycle)に加え、2R(Replace、Re-Create)を含んだ「SKG-5R」を推進しています。今回のプラットフォームへの参画は、海洋プラスチックごみ問題の解決策の1つとして、また資源循環やサーキュラーエコノミーへの前進として、MBBPの実用化や積極的な使用への取り組みが「Re-Create」の活動につながると考えています。

関連：2020年11月4日大阪大学プレスリリース

<https://www.eng.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/11/9da4d573881416680ed10f630eb876c3-1.pdf>